

令和7年度 園芸特産業関係功労者表彰 受賞者功績概要

1 佐久ゆうき合同会社（佐久市）

平成21年に地域の有機農家13戸が共同での生産や販売を行うことを目的に「佐久ゆうきの会」を立ち上げ、令和5年に法人化を図った。

また、クラウドの活用による栽培計画と受発注状況の共有システムを自社開発するとともに、地元市場と連携して効率的な生産や販売に取り組み、県内でトップクラスの規模の生産を行っている。

本県の有機農業の先行優良事例となっており、有機農産物の生産振興及び流通改善・販売促進に貢献された。

2 大井 美知男（南箕輪村）

信州大学で長年伝統野菜の調査・研究に携わり、数多くの伝統野菜を発掘するとともに、伝統野菜の特性、品種の歴史及び食文化などを明らかにし、伝統野菜が持つ価値と保存の必要性について啓発に努めた。

また、下栗芋のウイルスフリー化や清内路かぼちゃの選抜育種などによる種の保存に取り組むとともに、信州伝統野菜認定委員会委員長を長きに渡って務めた。

本県の伝統野菜の礎を築くなど伝統野菜の維持・継承に貢献された。

3 岡本 浩三（泰阜村）

飯田・下伊那地域、上伊那地域で代々お葉漬けとして親しまれ、なくてはならない伝統野菜である源助蕪菜の栽培の基幹となる採種事業や栽培振興、普及活動を長年に渡って取り組むとともに、村と連携して源助蕪菜の収穫とお葉漬け体験を開催して食文化の伝承に努めた。

また、採種技術を次代の担い手に継承するため、指導や助言を行い人材育成に取り組むなど伝統野菜の維持・継承に貢献された。

4 矢花 功（安曇野市）

昭和50年から養殖業に携わり、県水産試験場で開発した「信州サーモン」をいち早く導入するとともに、現在、信州サーモン振興協議会会長や信州大王イワナ振興協議会副会長を務めており、本県の養殖業をけん引する存在である。

また、本県のブランド魚を料理人が使いやすいフィレに加工するなど県内外への普及や知名度の向上に取り組んだ。

本県の養殖業の発展に大きく貢献された。